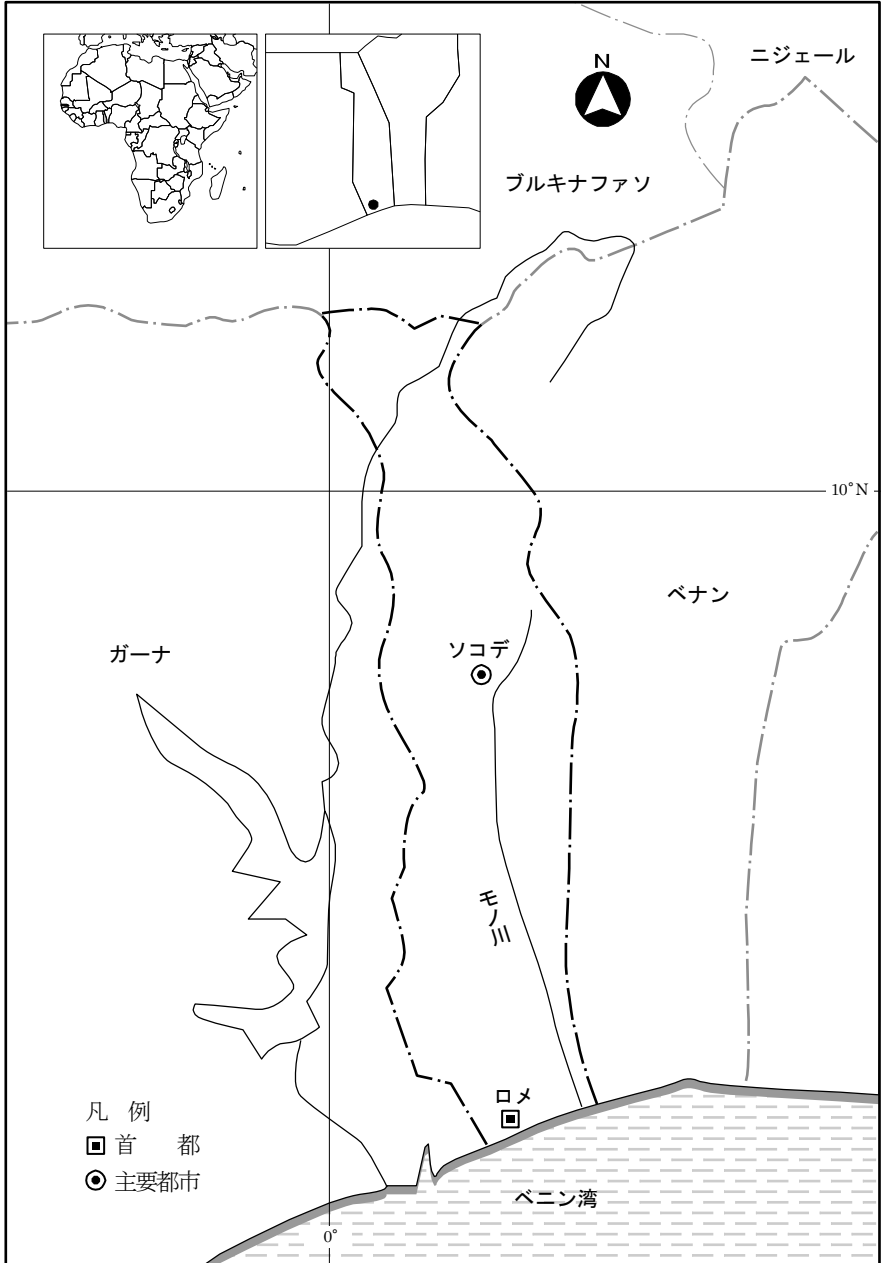


トーゴ共和国



(一般指標)

国名 (英名)	トーゴ共和国 (TOG : Republic of Togo)	
国土面積 万 ha	568 (九州本島の1.5倍)	
人口 万人	628.3 人口密度 98人/km ² (2012年)	
首都名(英名)	ロメ (Lome)	
首都人口 万人	92.1 (2005年)	
主要言語	フランス語(公用語)、カブレ語、エウェ語等各部族語	
宗教	キリスト教47.2%、伝統信仰33.0%、イスラム教13.7%	
国連加盟年月	1960年9月 (1960年4月独立)	
通貨単位	CFAフラン 1米ドル=491.078 (2013年7月)	
国民総所得 : GNI 億米 ^{ドル}	30 (2010年)	
一人当りGNI 米 ^{ドル}	490 (2010年)	
主要産業	農業(綿花、カカオ)	
日本から輸出 億円	31.6 (2011年)	
日本の輸入 億円	0.09 (2011年)	
土地利用 万ha	耕地	238 (43.8%) (2009年現在)
	森林	31 (5.6%) (2009年現在)
	牧場・牧草地	100 (18.4%) (2009年現在)
度量衡	メートル法	
祝祭日	1月1日元日、4月27日独立記念日、5月1日メーデー、6月21日殉教者の日、11月1日万霊節、12月25日クリスマス 移動祝日 : 復活祭、ラマダンの終日 他	
気候	西アフリカ北緯 6~11°に位置し、国土の大半は熱帯気候 Af・Aw で、雨季は南部の沿岸地域では3月~7月と10~11月の2回ある。北部では4~7月の1度だけ。最北部はステップ気候 BS。 ギニア湾沿岸にある首都ロメ(標高 20m、年平均気温 26.9℃、年降水量 778mm)	

(森林の指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	287
森林率	%	5.0
森林減少率 (2005-2010)	%	-5.8

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m ³	-
ha 当たり森林蓄積	m ³	-

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	42
森林面積に対する割合	%	15.0

(森林所有者)

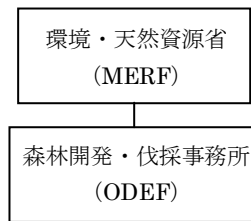
公的機関	%	27.0
民間	%	73.0

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	-
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	-

(森林・林業行政組織)

環境・天然資源省 (MERF) は 2008 年に再編され、新たな部局と地方出先機関を設置した。中央は官房、環境部、森林資源部、共通事業部からなる。森林開発・伐採事務所 (ODEF) は MERF の附属機関であり、2010 年までに準国家組織に変更される見込みであったが、これまでのところ何ら変更はない。ODEF は森林管理、林業普及、収穫そして造林の責任部局である。2008 年の組織改革に引き続き新たに 4 つの組織が MERF に設置された。国有林開発基金、環境管理局、環境国家基金、持続的開発委員会であり、20 名は大学学士保有者であり、73 名が技術者である。ロメ大学とトーゴ農業研究所が研究機関である。



(森林・林業政策)

2008 年までの森林関係の利用については、1938 年森林法及び 1988 年環境法により規定されていた。2008 年森林法は、住民の参加、持続的森林管理 (SFM)、生態学的安定、林産業の役割に重点を置いている。森林法は国有林の定義を明確にするとともに、森林分類のルール及び森林管理計画の規則、そして村落開発共同体 (CVD) の創設を通じた地域の制度化ルールを規定している。CVD は森林管理の責任を付与されているが、天然資源の全体的管理の権限は中央省庁である環境・天然資源省にほとんどが残っている。

1998 年国家環境政策は 2001 年に国家環境行動計画として完成したが、もっとも重要な森林政策である。2009 年国家森林政策宣言は政府に提出されたが、これは森林管理に関する参加型アプローチ、森林管理の地方分権化、利害関係者と政府の業務分担、持続的森林資源の原則、気候変動に対する森林の役割、そして森林セクターの組織化に及んでいる。2009 年、政府は土地利用管理のための国家政策を承認した。森林政策はこの政策に合致することが必要とされている。

(森林の現況)

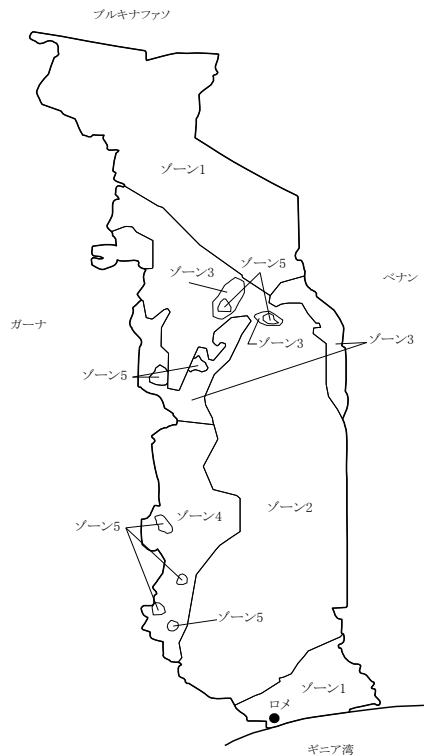
以前、トーゴ国は全体の17%が森林であったが、1990年以降、森林のほぼ50%を農地化などにより失った。植生分布は次の5つのゾーンに区分することができる。

ゾーン1：このゾーンはトーゴの中でも植生破壊が進んでいる地域で、ギニア湾に面した沿岸部、内陸部のサバンナ・リージョン及び国の北東部に当たるカラ・リージョンに分布する。このうち沿岸部では *Ad Ansonia digitations* と *Elaeis guineensis* が生育しており、またカラ地域のサバンナを形成する樹種は *Parkia biglobosa* と *Butyrospermum parkii* である。

ゾーン2：このゾーンはトーゴの中心部を広く占めており、地域的には沿岸地域の西部及び高原台地東部からカラ・リージョンの西部にかけての部分である。植生は、沿岸地域には *Terminalia laxiflora*, *Elaeis guineensis* のサバンナが形成されており、また高原台地地域には *Butyrospermum parkii*, *Anogeissus leiocarpus* 等が主な樹種として分布している。一方、中央部にはやはり *Butyrospermum parkii*, *Daniella oliverri* が、カラ・リージョンには、*Daniella oliverri* と *Hymenocardia acida* がそれぞれ主要樹種として分布している。このゾーンもゾーン1と同様に植生破壊の進んでいる地域である。

ゾーン3：このゾーンはトーゴの木材生産の殆どを行う地域である。地域的には中央地域の一番東側にあたるカンボル周辺とカラ・リージョンの一番西側のバサル周辺にあたり、主な生育樹種は、*Khaya senegalensis* と *Prosopis africana* である。

ゾーン4：このゾーンもトーゴの中では主要な木材の生産地であるが、同時に荒廃も進んでいる。地域的にはガーナに面する中央地域と高原台地地域の西側にまたがっ



トーゴの植生ゾーン区分図

ている。主な生育樹種は、*Khaya senegalensis* と *Milicia excella* である。

ゾーン 5：このゾーンは標高の高い地域に分布する *Butyrospermum parkii* が限定的に分布する地域で、高原台地地域のマルファカッサ、カブイエ山の付近で主に見られる。

この他に 5 つのゾーン全体にまたがって見られる植生として、*Azelia africa*、*Albizia ferruginea*、*Ceiba pentandra*、*Pycnanthus angolensis* 等が挙げられる。

トーゴは、森林面積が少ない国であり、森林経営に必要な各種地図、その他の資料は整っていない。1996 年における森林被覆率は 21%（「World Resources 1998-99 による」）であるという報告もある。FRA2010 によると、2010 年現在の総森林面積は、287 千 ha とされており、森林被覆率は 5.0%となっている。1990 年以降の森林減少は年平均 20 千 ha で、森林減少率は 5.8%と高率になっている。

多くの森林減少はより湿潤な地域で起こっている。その主な原因は、無秩序な森林火災、過度な薪炭材の採取、移動耕作、違法伐採などである。それに加え、過去 35 年間、南部 Abdoulay 地域と西部 Tchilla-MOnota 森林地域において綿花栽培のための開墾が森林内で行われた。トーゴにはもはや原生林は残っていない。保護林の 3 分の 1 以上が農地に転換されてきた。

(人工造林)

森林面積が少ない上に、急激に森林が減少しているトーゴ国にとっては、人工造林の推進は極めて重要な課題であるが、造林はあまり進んでいない。FRA2010 によると総造林地面積は 42 千 ha に過ぎず、年間の造林面積は約 1 千 ha となっている。

天然林管理のための造林技術は特筆すべきものはない。多くの樹種が木材生産のために使われているが、収穫量に関するデータはない。造林用樹種は次のとおりである。

- *Tectona grandis* (teak)
- *Khaya grandifolia* (acajou)
- *Pterocarpus spp*
- *Pterocarpus eninaceus* (vene)
- *Chlorophora excelsa* (iroko)
- *Antiaris Africana* (ako)
- *Triphochiton scleroxylon* (ayous)

これ以外にも、荒廃森林又は二次林における用材または薪炭用造林樹種は以下のとおりである。

・ *Azelia Africana*、*Albizia spp.*、*A. zygia*、*Alstonia congensis*、*Anogeissus leiocarpus*、*Ceiba pentandra*、*Cola cordifolia*、*Daniellia oliveri*、*Dichostachys glomerata*、*Dialium guineense*、*Macaranga spinosa*、*Parkia biglobosa*、*Prosopis Africana*、*Pterocarpus erinacesus*、*Terminalia superb*、*Uapaca heudelotii* など

以上であるが、最も重要な商用樹種はチークである。チークは 1905 年に導入され、国内に広く植えられている。名称はトーゴチークである。本樹種は天然更新するが、アグロフォレストリ用樹種として、街路樹として、また産業造林として植栽されている。現在 18,000ha 以上のチーク造林地があり、タウンヤ法により主に農地に年間 300ha の植林が計画されている。これはこの国の木材需要を賄うのに十分な植林面積ではない。年間 2,000ha の植林が必要である。チークの人工林の伐期は 70 年とされている。

(林産業)

トーゴの丸太生産は 2010 年には 460 万 m³であった。このうち、わずか 8 万 m³ が用材生産であるが、ほとんどはチークである。

トーゴの木材輸出はほとんどが丸太である。2010 年にはおよそ 10 万 m³の丸太が輸出された。その主な樹種はチークであり、次いで *Pterocarpus* となっている。輸出先はインド、パキスタン、中国などである。薪炭材の生産は 2010 年には年間 4.4 百万 m³であり、丸太生産のほとんどが薪炭材である。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m³

年次	薪炭用	用 材				原木生産量 合計
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	
1985	4,140	6	—	149	155	4,295
1990	4,581	12	—	173	185	4,766
1995	5,220	35	—	201	236	5,456
2000	5,499	62	—	244	306	5,805
2006	4,424	86	—	80	166	4,590
2010	4,424	86	—	80	166	4,590

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量（2010）

単位：数量万 m³、金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	金 額	数 量	金 額
丸 太	0.2	—	10.5	4,246.6
製 材	0.5	—	0.1	154.5
合 板	0.9	173.3	0.0	1.3

出典：ITTO, 2011, Status of Tropical Forest Management